

第1回宇都宮市上下水道事業懇話会 議事録

■ 日 時

平成20年8月28日(木) 午後2時～午後4時

■ 会 場

宇都宮市上下水道局 5階大会議室

■ 出席者

- ・ 委 員：赤塚朋子委員，綾部健二委員，菊池武美委員，齋藤貞夫委員，
竹澤一夫委員，古橋堯委員，三田良江委員，室恵子委員，和田尚久委員
- ・ 局 側：上下水道局長，経営担当次長，技術担当次長，経営企画課長，経営企画課
経営担当主幹，企業総務課長，サービスセンター所長，工事受付センター
所長，配水管理センター所長，水道建設課長，下水道建設課長，下水道施
設管理課長，技術監理室長，事務局職員

■ 傍聴者数

2 名

■ 会議経過

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 管理者あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 座長の互選について
 - ・ 委員の互選により，和田尚久委員を座長に選出。
- 6 職務代理者の指名について
 - ・ 座長により，赤塚朋子委員を職務代理者に指名。
- 7 会議の公開について
 - ・ 本懇話会を原則公開にすることを決定。
- 8 懇 話
 - (1) 宇都宮市上下水道事業のあらまし
 - (2) 経営状況と予算
事務局より，資料に基づき説明。
A 委 員： 企業債の借り換えを実施しているということであるが，資料を見ても

支払利息の負担は非常に大きいことから、引き続き低金利への借り換えを進めていただきたい。

座長： 水道G L Pという言葉は馴染みのない言葉なので、補足説明が本文の中にあっただほうがよい。また、予算のあらましにある円グラフの大きさはそれぞれの金額に見合った大きさにするなど工夫したほうがよい。

(3) 宇都宮市上下水道基本計画の実績評価と施策の体系について

事務局より、資料に基づき説明。

B 委員： 実績評価の中で、「図る」「図った」、「やっている」「やった」が混在しているが実績評価なので、すべて結果ということではないのか。また、技術の継承が課題になっているとのことだが、具体的にはどのように取り組んでいるのか。

事務局： 文章の表現についてだが、現計画は平成22年度までの計画となっており、今回の実績評価は中間評価となっている。その中で、すでに完了したものについては「図った」「やった」と表現し、取り組んでいる途中のものについては「図る」「やっている」と表現した。

事務局： 技術の継承についてだが、上下水道局の人員構成は年齢別に平準化されているので、市長部局や民間企業に比べれば影響が少ない状況ではある。しかしながら、熟練技術者の退職はライフラインを担う上下水道局としても大きな課題であることから、昨年度「人材育成方針」を策定し、技術の継承や人材育成に関して局全体として取り組んでいくということで、推進会議を設置することとした。その中で研修のあり方や部局間での情報の共有化などを踏まえて、今後の技術の継承の手法を検討していく。

B 委員： I S O 9 0 0 1 の継続的改善の観点においても、教育は大切な要素だと思うので、積極的に進めていっていただきたい。

C 委員： 水道事業において未加入世帯の解消とあるが、未加入の理由が何か伺いたい。また、給水原価が169.18円となっているが、これはどれくらいの水準なのか併せて伺いたい。

事務局： 未加入の理由についてだが、未加入世帯は井戸水を使用しているということである。

事務局： 給水原価についてだが、類似都市の平均が164.82円となっており、類似都市に比べると宇都宮市は高めだが、18年度決算における数値が、175.04円となっており、年々原価の抑制を図っているところである。

D 委員： 水道料金についてだが、自宅の水道料金を計算すると1㎡あたり76.

32円となるのだが、給水原価が169.18円ということだとすると、かなりサービスをして赤字になっているのではないか。

事務局： 宇都宮市は逓増制の料金体系を採用しており、使えば使うほど単価が高くなる仕組みになっている。工場や病院などでは水をたくさん使用するので、従量単価が高い。そういったものも含めると、供給単価は給水原価を上回っており、適正な料金をいただいて事業を運営しているといえる。

E 委員： 「水道水に安心感を持つ市民の割合」という指標があり、イベント会場でのアンケート調査によるとあるが、安心感を確認するためにどのような質問をしたのか。

事務局： 今までは市で実施している世論調査や、各種イベントへの出展の際などに簡易なアンケートを実施してきたので、漠然とした聞き方であった。今後は、さらに詳細な分析をしようということで、水への安全性や、今後の事業運営などについて、総合的なアンケートを実施していく予定である。

E 委員： そのようなアンケートを実施していくのであれば、聞き方を漠然としたものとせず、何に対して、どのようなことに対して不安を抱いているか、質問内容を掘り下げて聞き、結果を分析したほうがよい。

座長： これから質問事項をまとめていくのであれば、懇話会の意見なども取り入れていただきたい。

B 委員： 安心感を持つ市民が8割程度しかいないというのは意外であった。

(4) 宇都宮市公共下水道合流式下水道緊急改善事業について

事務局より、資料に基づき説明。

座長： 第1回目ということもあるので、事務局が説明した内容にとらわれず自由な意見交換をしたいと思います。

F 委員： 宇都宮市は農業集落排水処理事業としての整備は完了したと聞いている。それ以外は浄化槽ということになると思うが、浄化槽設置にあたっては市から補助金が出ることになっているものの、予算が限られており一部抽選だと聞いている。公共用水域の水質悪化はやはり生活用水の排水が原因だと思うのでもう少し予算を確保してほしい。また、雨水貯留浸透施設の設置に対して補助金を交付していると思うが、例えば雨水をトイレの水に利用するなどの工事も補助対象にするなどといった、対象枠の拡大も検討したらどうか。

事務局： 宇都宮市においては、市街化区域については公共下水道を整備し、市街化調整区域については特定環境保全公共下水道、農業集落排水処理施

設及び合併浄化槽により水洗化の整備を進めている。合併浄化槽については所管が環境部となっており上下水道局では補助を取り扱っていない状況であるため、環境部に提案があったことを報告しておく。また、雨水貯留浸透施設補助については、現在国のモデル事業として実施しており、費用負担は、国が3分の1、市が3分の1、残りの3分の1が設置者の負担となっている。雨水の有効利用や環境保全などといった趣旨から設置者負担の3分の1をどうしていくか、また、補助対象枠をどのように拡大できるか、今後検討していく。

G 委員： 上下水道基本計画の実績評価について、その評価の仕組みについて、どのような人がどのように評価しているのか教えてほしい。評価のシステムが明示されていない。

事務局： 取り組んできた事業について、実施した担当課が自己評価したものを集約したものである。今回は中間評価であり、平成19年度時点の目標値というものを設定していなかったもので、定量的な比較ができていない部分もある。

G 委員： 外部評価を入れる予定はあるか。

事務局： 今のところ予定はない。

座 長： 目標値の設定の仕方、その目標値を設定する意味、といったことを踏まえて目標値を作るのが意外と難しい。例えば、水道普及率の目標値が99.3%となっているが、これは水の安全性の視点からの設定なのか、それとも水道事業としての収入の視点からの設定なのか、そういったことも整理して今後は目標値を設定していったほうがよい。

E 委員： 平成20年度の経営方針の中に水道水の高品質化とあるが、おいしい水を作るために追加のランニングコストを要するのか、それとも通常の維持管理の中で付加価値的についてくるものなのか。つまり、水道水のうち、飲み水として使われている割合は非常に低く、大抵がトイレや炊事、お風呂といったものに使われているのが現状であり、追加のランニングコストを要してまでおいしい水を作るのはもったいないといった考え方もある。

事務局： 水道水の高品質化についてだが、現在局で策定している財政構造改革計画により費用の抑制を図りながら、直結給水の推進や塩素の均一化、老朽水道管の計画的な改築更新などによって質を高めようというものであり、追加のランニングコストを要するものではない。

C 委員： 現在の企業債残高はどれくらいになっているのか。

事務局： 水道事業が約500億円、下水道事業が約1,000億円となってい

る。上下水道事業は装置産業であり，民間のような株式といった資本もないことから，整備にあたっては企業債に頼る部分が多い。

座 長： それでは，次回の日程を事務局から説明願いたい。

事 務 局： 次回は11月上旬あたりを予定している。詳細な日程は改めて調整のうえ，各委員宛て別途通知する。

9 閉 会